

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善をする。また開室時間の延長を検討する。	→「法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善状況(新たに確保できたスペースの広さ)および開室時間の延長の有無」	C	C	B		
2. TAの採用数を現在よりも増やして学生の多様な要求に対応できるようにする。	→「前期課程大学院生からのTA採用数」	D	C	B		
3. 教材作成、試験問題作成用の録音ブースを設置することで学生の外国語運用能力の育成をはかる。	→「録音ブース設置の有無」	D	B	A		
4. 学部単位の会議数および会議所要時間を現在より削減して研究時間を確保する。とくに長時間にわたる教授会は回数削減とともに2時間以内に終了できるようにする。	→「会議数、会議時間の削減状況」	D	D	D		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

### 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	収納スペースについては、従来どおり、データベースで閲覧可能な図書を箱詰めして保管する、退任教員の返還図書を図書館や他学部図書室に所蔵してもらうなどの努力をする一方、新着雑誌の設置棚をスタックランナー式にすることによって、スペースを確保すべく、すでに予算を確保、2012年夏休み中に工事を行う予定である。
目標2	TAは引き続き、大学院後期課程の院生、大学院研究員、研究科研究員から採用しており、大学院前期課程からの採用は2012年4月から行っている。TAの延べ人数は、2009年度春学期・秋学期に各9名、2010年度春学期4名・秋学期は9名(そのほか途中退職2名、途中採用者4名)、2011年度は春学期4名・秋学期各7名(そのほか途中退職1名、途中採用者5名)と推移している。またTAは、前期課程院生・学部学生(学部学生は2010年度から)に対する学習相談の仕事も担当しており、相談人数は2009年度23人、2010年度が12人、2011年度は19人と、院生・学生の学修サポートに一定の役割を果たしている。このほか2012年度からLA制度を導入し、この点においても授業支援体制の整備に着手している。
目標3	録音ブースについては、2011年夏休み中に工事が行われ、すでに教材開発室内に設置済みである。
目標4	教授会・研究科委員会を中心として会議数・会議時間を減らすため、まず会議回数・会議時間を毎年集計し、現状把握・分析を行うことを目標として掲げていたが、2011年度は記録をとる体制を作ることができなかった。そこで、2012年度からは確実に学部の仕事に関する会議数、会議時間、参加人数を事務室で記録していくために、担当者を決定した。
備考	

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】			単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	24	14	12	10	12	
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.4	13.8	18.0	17.4	16.2	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	10.9	14.2	15.0	18.0	12.4	
		講師	時間	11.0	—	—	—	—	
		助教	時間	—	—	—	—	—	